

オリンピックの花、陸上競技を見て、しかもワールドレコードを達成した女子棒高跳びを目の当たりにして興奮状態で会場を後にする。といっても、今日の宿は決まっていない。もちろんパトラス行きの電車もない....。

宿の情報が欲しい

前回野宿した場所はこの競技場からかなり遠いのがあった。そしてやはりオリンピック会場付近は、どこも警備が厳重でとても野宿は出来ない。

取りあえず電車に乗って海の近くに行くことにした。既に午前1時を回っている。

電車を降り、港へ向かう。しかしこの駅で降りたのは失敗だった。

ピレウスという大きな港町の隣の駅で、かなり賑やかなのである。バーやディスコが至るところにあって、ばっちりシエスタを取ったのか、若者が夜中まで騒いでいる。

そしてそれだけではなかった。ちょっと静かな場所を見つけると、カップルが必ずいるのがあった。

仕方がない、港沿いの公園の、ベンチは固いから草の上に寝るか。前回の港のコンクリートよりはマシなはず。

しかし、寝る時には近くのディスコの大音響に悩まされ、3時近くには蚊の攻撃。露出している部分には、虫除けスプレーをしっかりと塗ったのに、容赦なく攻撃してくる。ギリシャの蚊ってすごいのだ。一度刺されると大きく腫れて3日ぐらい痒かったりする。

でもどっぷりと疲れていたもので、日本人の血でよかったらもう幾らでも吸ってくれ、O型RHプラスだからよろしく、という気分。

しかし4時になって、ポツポツと寝袋に雨の降る音が....。

夏のギリシャにしては珍しい。どこかに雨宿りが出来るところはないかなあ、と半身を起こしたその時、大量の水が頭と背中に掛かる。

一体何があったのだ、とパニックになったが、実は雨ではなく公園のスプリンクラーだったのだ。何も4時に水を撒かんでもいいのに。

さすが雨の降らない夏。大量の水を撒いてくれたもんだ。

頭からは水が滴り、服もびしょり。何が悲しくて、まだ真っ暗な朝の4時に着替えをしなきゃならないんだろう。

野宿ゆえに、昨日はシャワーを浴びてないからまあ丁度いいか、などとは思えなかったなあ。

オリンピックに来たのは初めてなので、全てのオリンピックがこんな調子なのかもしれないが、もうちょっと情報を簡単に入手できないものかと思う。

まず宿。ある同地区同レベルのホテル料金が、片方は125ユーロ、片方が70ユーロだったりする(何れも、ヨーロッパなら40ユーロ程度の部屋だけ)。こんな調子だから、探せば大当たりがあったかもしれないが、悔しい思いをしたかもしれない。

知り合ったイギリス人の若者曰く、1日目は電車に乗って往復しながら寝た。2日目は空港へ行

って寝た。3日目はホテルの屋上で寝袋で寝た。でも25ユーロ(3450円)だった、と。私は野宿で良かったかも(と前向きに考えよう)。

競技の情報が欲しい

競技に関する情報もそうだ。もっと簡単に手に入らないものか。

アテネに入る前は、何の競技を、いつどこで何時からやるのか、という情報が無くて困ったが、いざアテネに入るとさすがにいろいろ調べようがあった。

例えば、Athens News という新聞が毎日発行されている。ここには、前日のオリンピックの結果、今日と明日の競技スケジュール、競技場の案内などが書かれている。一部2ユーロ(276円)と高いが、そこそこ重宝した。

しかし、どの情報源もそうだが、Semifinal などと書かれているだけで、それがどこの国の試合なのか、もしくは誰の試合なのかの情報は得にくい。チケットオフィスでは本当は分かっているのだが、客を次々にこなす必要にかられ、忙しくてあまり教えてくれない。

選手村や日本料理店などでは日本の新聞の速報が配られていて、そこに書かれていることがあるらしいが、こちらはあまり縁が無い。

日本からのツアーの客にその辺の事情を聞いてみた。ツアー会社でも日程と日本選手の登場時間を調べるのだそうだが、どうも添乗員は日本からの情報だけが頼りらしく、タイムリーな情報はない。高い金払っているのに、何で知らないの、という苦情があるそうだ。

ゲスな話だが、その高い金とは、現地4泊、機中2泊のツアーで60万円だそうだ。ツアーにはオリンピックのチケットも何枚かセットされている。日本人が活躍する柔道、野球、ソフトボールだそうだ。旅行会社曰く、『この3つは、現地ではなかなか手に入りませんよ』という殺し文句があったそうだ。でも違うんだな。この3種目は、ギリシャ人があまり馴染みが無いだけに、チケットはむしろ余り気味なんだな。

安いチケットが欲しい

そのチケット、ユーロが高いせいもあるけど、やっぱり高い。

オリンピックのチケットは、正規のチケット売り場の他に、アルファ銀行でも手に入る。この銀行はオリンピックのオフィシャルスポンサーだそうだ。

またインターネットでも買う事ができるそうだ。決済はやはりオフィシャルスポンサーであるVISA。

正規のチケット売り場での決済も、VISAかアルファ銀行のカードしか受け付けない。オリンピック委員会、なかなか徹底している。

最初は知らなかったのだが、私が宿泊しているパトラスにも、何とチケットオフィスがあったのだった。もっと驚いたことに、実はパトラスは、サッカー会場の1つだった。人気のあるサッカーは、決勝近くなるとアテネでやるが、それまでは幾つかの地方の都市でゲームが行われるらしい。因みに砲丸投げは、オリンピック発生のオリンピアで行われている。たぶんアテネから7時間ぐらい掛かるぞ。ちょっと可哀想だ。

話がそれだが、アテネの中心部にモナスティラキ広場というのがある。ここでもオリンピックのチケットを非公式に大々的に売っていた。そしてやはり定価なのが不思議だ。警察も取り締まっていない。

もしかすると、スポンサーが握っていた分を吐き出しているのかな？ それともオリンピック委員会がなかなかチケットが売れないので、街の商人を使って販売しているのか???



チケットが台に並んでいて、それを周囲が取り囲んでいる様子。すごい勢いで売買が成立している。

ともかくいわゆるダフ屋行為をしている、つまり定価よりも高く売り出している例は一度見ただけで、後は定価もしくは定価割れで売っていた。

日本人の中には、わざわざヨーロッパにいる友人に頼んで、友人名でチケットを買ってもらっている人がいる。何でもヨーロッパ割り当てというのがあるらしい。そして友人から委任状まで出してもらってようやくゲームを見るという。しかしこんな風に街角で大々的に、しかも大量に出回っているなら、何もそこまでしなくても良いことになる。

最終日の陸上は最も人気が高いチケットの1つであるが、それさえも大量に手にしている商人がいた。やはり定価で販売しているが、何と150ユーロ(20,700円)だ。多分当日の午前中には値下がりしているだろう。

そんな事を考えていると、実はオリンピック委員会のチケット窓口そのものがダフ屋なんじゃないかと思う。通常よりも2倍くらいの値段で捌いている気がする。1枚150ユーロ(20,700円)なんてやっぱり異常だ。非公式ルートでチケットを仕入れた業者は、街で割り引いて売るという具合なのかも。

あんなに高いと、家族連れではそうそう見に行けないと思うけどなあ。

飲み物が欲しい

そうそうスポンサーといえ、会場の飲み物に文句あり。

一步会場に入ると、飲み物はたったの3種類だけ。いずれもオフィシャルスポンサーのもの。

- (1)ハイネケンのビール(400mlのカップか、330mlのボトル)が2ユーロ(276円)。
- (2)コカコーラ(330mlのボトル)が1ユーロ(138円)。
- (3)どこかのメーカーの水(500mlのボトル)が0.5ユーロ(69円)。

食べ物もしかり。こんな不味いホットドック、今まで食べたことが無いというやつが、2.5ユーロ(345円)である。

お粗末な会場

そうそう会場作りの準備にも文句あり。

妙にごちゃごちゃしたところがあるかと思うと、突然とんでもなく広い、されど何も無い敷地がかなりある。

ある会場では、スタジアムとバスターミナルの間に野球場が幾つも入るような敷地がある。これはきっと何かに使われるはずだったものが、噂に違わず建設が間に合わなかったに違いない。結果として観客は、暑い日差しの中を延々と歩くはめになる

一方で立派な橋があれば、片方では崩れてしまいそうなボロい橋もある。路面の状態もしかり。

オリンピックを盛り上げる飾り付けもアンバランス。

競技自体には支障が無いのだろうが、ああ、これは完成されなかったんだな、と感じさせるところがたくさんあった。



会場近くにある、広大なただ何も無い広場。きっと何かの予定地だったに違いない。

私のオリンピック総決算

(1)ハンドボール女子予選	ウクライナのパワーに感激	10 ユーロ
(2)ホッケー男子予選	あのスピードと運動量にびっくり	10 ユーロ
(3)ソフトボール準決勝	上野投手に乾杯！一度捕球してみたい	20 ユーロ
(4)野球予選	高橋選手のデッドボールが痛そう	10 ユーロ
(5)ソフトボール準決勝	すごい悔しいゲーム。悔しい	20 ユーロ
(6)マラソン女子	野口選手万歳！	10 ユーロ
(7)ハンドボール男子準決勝	小粒ながら韓国のスピードに脱帽	15 ユーロ
(8)陸上	息が止る様な棒高跳びに感動	90 ユーロ

合計 185 ユーロ (25,530 円)の出費であった。

10 日以上の食費を投入するほどチケットは高かったし、まあいろいろ文句もあるが、高いレベルのスポーツってやっぱり面白いなあ。

中国がこの 4 年間、順調に経済成長してしまったら、10 億人以上もの人がいる中で、果たして日本人にチケットが回ってくるのか、今から心配である。

古代アゴラとアクロポリス

オリンピックがなくとも、アテネは人々を魅了する都市である。

賑やかな商店街を過ぎると古代アゴラと呼ばれる遺跡が忽然と現れた。

そのチケットはアクロポリス他との共通券が 12 ユーロ(1660 円)ととても高いが、でもさすがに入らない人はいない。しかたがない。

ここにあるものはほとんどが B.C.時代のものだそうだ。テセイオンと呼ばれる神殿の様に、中には B.C.400 代というのものもあるから、かれこれ 2400 年も昔の話だ。

世界史の教科書の最初はここから始まっていた気がする。

【アゴラ】というのは市場という意味らしいが、政治・宗教・芸術・文化の中心施設の様なところらしい。高校の倫理で習ったソクラテス、プラトン、アリストテレスの世界だ。う~ん、【無智の智】って習ったなあ。倫理の教科書の最初もここだなあ。

この場所にはアタロスの柱廊と呼ばれる博物館もある。数多くの遺跡の中で、ただ一つ完全に復元されたものらしい。長さ 115m、幅 20m の巨大な建物である。ぶっとい柱がボンボン立っていて、この辺りがギリシャらしい。

展示物は、B.C.8 世紀の水差しみたいなものがある。

当時のギリシャってすごいんだねえとギリシャ人に言うと、『そうなんだよ、我々の誇りさ。でも今のニューギリシャ人はたいしたことないけどね』と笑っていた。

教科書にも、資料集にもばっちり写真が載っているアクロポリスは、ここから丘を上ったところにある。ギリシャ観光のハイライトだそうだ。

入り口のクロークでリュックを預ける。それだけ重要な遺跡がごろごろしているということか。

この場所は、実は結構な高さにある。海拔 200メートルくらいか。アテネの街が一望できてすごく素敵。アクロポリスとは、『高い丘の上の都市』という意味だそうだからそのまんまである。途中、イロド・アティコスという名の音楽堂がある。何でも 161 年に建築されたらしいが、現在でも現役で、かの有名な(私は知らないけど)アテネ・フェスティバルが行われる会場だそうだ。5000 人近く収容できる座席はさすがに修復されているらしいが、それにしても長持ちしている。

時代からして、こういうのをきつと典型的なローマ建築というんだろうな。

そしてそして丘の頂上に、かつての栄光の証、パルテノン神殿がそびえている。

B.C.438 だそうだ。2500 年も昔からここに立っているというのは、もう想像を絶する。

本当に教科書通り。アテネの青い空までそのまんま。

これまで、バルト 3 国や、ポーランド、クロアチアなどでオールドタウンと呼ばれる街を見てき



古代アゴラの発掘は、1931 年より開始されたそうだ。それ以前は、こんなすごい場所に住んでいた人がいたらしい。



イロド・アティコスというのは、この音楽堂をアテネ市に寄付した大富豪らしい。すごいもの持ってたなあ。

たが、日本人の私から見ると、その原形ってのは、ここから来ているんじゃないかという気がするなあ。

様式はそれぞれ違うのだろうけど、石造りというのは長持ちするから、いろいろな設計者が、過去の建築物を目の当たりにしながら、その時その時の最新建築をしたのだろう。

しかし、そんな昔によく、これだけの建築物~大きいという意味でも、美しいという意味でも~をおったてたなあ。微妙な曲線の使い方がすごいと思う。



もうまさに教科書通り。圧倒的な存在感と美しさ。長く残っているものには必ず“美”が伴っているなあ。

パルテノン神殿から見るアテネ市は、すごく素敵で感動的だ。

眼下には、たった今、行ってきた古代アゴラが見える。

さらにその下には、地下鉄が走っているはず。奈良県じゃないけど、遺跡がごろごろ出てくるので、アテネも地下鉄を通すのがたいへんだったそう。

天気も良くてそよ風が吹いて、まったく夏のアテネは素晴らしい。



アクロポリスから見るアテネ市。眼下には古代アゴラが見える。こんな素敵で感動的な場所で偉大な哲学者達が生まれたんだ、と感動。

アテネの街

シンタグマと呼ばれるアテネの中心地の露地が、オリンピック様式になっていた。

子供たちが、スタート地点から走り回っている。両サイドにはオリンピックの各種目を面白く飾っている。

こんな場所は、ガイドブックにはなかなか登場しない場所だ。日本のテレビ局は気づいていなかったかな。

パトラスへ帰る電車の時間まで、まだ2時間あった。発着するラリッサ駅には何もないので、その先のアッティキという駅まで行ってみた。

ここもあまり賑やかではない。ただ一軒だけ妙に煙もくもくの店が。思いっきり煙を出しながら、店の中で鶏肉を丸ごと焼いていた。



シューズがお皿になっていたり、柔道着が丸いカラフルなボールで飾られていたり面白い。

この店にはロシア人がたむろしている。私も彼らに混ざりここでギリシャ料理のスプラキを注文。とても美味い。鶏肉と牛肉の 2 種類を食べ、ビールも 2 本飲んだ。このロシア人と仲良しになり、メールアドレスを交換。連中の中には昔レスリングで金メダルを取ったという人がいた。今回はコーチできているらしい。オリンピック選手も何人がいたようだ。英語が通じないのであまりコミュニケーションできずに残念。

そう言えば昨日、日陰の芝生でちょっと昼寝していると、近くにいた黒人選手に、ドイツ人の観光客 3 人が近寄って何やら話している。どうも黒人の彼はオリンピック選手の様だった。しきりと握手やサインをもらっている。何の競技か分からないが。この時期にアテネの街を歩いていると、こんな風には実はすぐ横にゴールドメダリストがいたりするらしい。さんまやフジテレビの女子アナも歩いているそうだが...

ギリシャの物価

イギリス人も、スイス人もギリシャの物価は高いという。

水、ビールはOKだが、食事が高いと。これは同感だ。例外は郷土料理。要は【スプラキ】。これだけは安いと思うと。同感である。

そのビールも、レストランは、小売店の倍。小売店はスーパーの値段の倍である。

食事も原材料はとにかく安いらしいが、外国人がレストランでちゃんと食べようとする、簡単に 20 ユーロ(2760 円)を越えてしまうので困る。

もちろん、そんなところに私はめったに行かない(いや行けない)。

ギリシャには、【タベルナ】という、日本人にとっては妙な名前の食堂がある。どうもレストランよりも気さくなお店の事をさすらしい。ここでの食事だと 10 ユーロ(1380 円)くらい。それでもちょっと高いので、私が常食としているのがスプラキである。ずっしり重い肉入りパンが大体 1.5 ユーロ(207 円)程度。2 つも食べれば満腹である。



スプラキの定義が未だに分からないが、こうして肉の固まりを焼いて、細かく切ったものを皿に盛ったり、半に挟んだりする。

ギリシャ人の生活

ギリシャ人は、シエスタをする。人によっては 14 時から 18 時まで寝て、夕食は 11 時や 12 時に取り、3 時くらいに寝て 6 時くらいに起きて活動するらしい。

オリンピックゲームがとんでもなく夜遅くまでやっている 1 つにはギリシャ人の生活リズムに合わせているということがあろうようだ。もちろん、テレビ中継のメジャー市場である、イギリス、フランスに合わせているという事情ももちろんある。日本の皆様は、きっとつらかったらうな。

たぶんつづく